

4月3日(水)まで

「武家の備え - 井伊家伝来の弓具 -」

「弓馬(きゅうば)の道」という語句があるように、弓術と馬術は武士にとって欠かせない武術でした。本展では井伊家伝来の弓具に注目し、弓矢をはじめ、弓籠手(ゆごて)や矢筒(やづつ)などの品々を紹介します。

4月6日(土)~5月7日(火)

「国宝・彦根屏風」

近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。



▲風俗画(彦根屏風)

ギャラリートーク

4月6日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

※事前申込:不要 場所:講堂

観覧料が必要

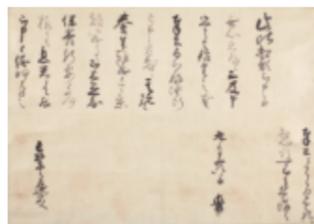
常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

「ほんものとの出会い」

5月6日(月・振)まで

井伊直孝書状 長野十郎左衛門宛

井伊家2代直孝が、病に臥(ふ)せていた彦根藩家老・長野十郎左衛門に送った見舞いの書状。「息災にておられるのが何よりの直孝に対する奉公」であると、直孝の考えが述べられています。



4月の休館日はありません。4月4日(水)、同5日(木)は、展示替えのため一部休室しています。

チケット情報

※みずほ文化センターは、4月1日(月)から(株)ケイミックスパブリックビジネスが指定管理者として管理運営を行うこととなりました。

ひこね市文化プラザ

4月28日(日) 15:00 グランドホール

【共催事業】自衛隊・近江高合同演奏会

出演:陸上自衛隊中部方面音楽隊・近江高等学校吹奏楽部

自由 入場無料(要入場整理券) [4月7日(日) 10:00~配布開始]

場所:メッセ棟1階 展示ロビー (10:00~17:00)

※先着順(1人につき2枚まで。電話などでの予約不可)

5月6日(月・振) 14:00 エコーホール

第10回エコーホール ピアノメンバー演奏会 ア・ピアチェレ!

今年で10回目を迎える「ア・ピアチェレ!」。クラシックの演奏会に定評があるエコーホールで、外国製のフルコンサートピアノを使い、メンバー10人が演奏します。気軽に楽しめるピアノ演奏会にご家族揃ってお越しください。

自由 入場無料 (要入場整理券) [配布中]



申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00) インターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

4月の休館日 1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、30日(火・休)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。

※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

みずほ文化センター

5月18日(土) 14:00 練習室

みずほ寄席 VOL.31

出演:笑福亭飛梅(とびうめ)、笑福亭恭瓶(きょうへい)、代走みつくに、コンチェルト

自由 【発売中】前売500円 当日600円

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります(有料/要予約)。

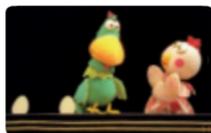
6月29日(土) 14:00 練習室

《幼児・児童向け人形劇公演》

糸あやつり人形劇団のむし

人形劇バラエティーショー『夢見るコッケちゃん』

マリオネットや手遣い人形、腹話術などいろいろな人形が出てくる楽しいバラエティーショー! 小さなお子さんから楽しめるお話です。各地の公演で子どもたちにとっても人気の作品です。



自由 【5月11日(土) 9:00~販売開始]

前売500円 当日600円 ※3歳以上有料

申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00~17:00)

4月の休館日 2日(火)、9日(火)、16日(火)、23日(火)、30日(火・休)

◎表記の価格は全て税込価格です。

◎みずほ寄席は、託児サービスを行います。子ども1人1,000円です(公演の10日前までにお申し込みください)。

大老・井伊直弼の小さな書付

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

井伊直弼は、親しい家臣らに宛て、自らの感情をも記した自筆の手紙をよく書いていましたが、それは青年期のもものが大半で、藩主や大老を勤めていた頃のものも多くありません。職務に多忙で、自ら手紙を書く時間が少なかったのかもしれない。また、職務上作成する書類になると、感情を記す余地もありません。大老を勤めていた時期の直弼が内面を自ら書き表したものは、意外と残っていないのです。

ここでは、大老を勤めていた時期の数少ない直弼自筆文書の中から、小さな紙に書かれた書付を紹介いたします。複数残っていますが、まずは一例を見てみましょう。

京都への飛脚をまだ出発させていないのであれば、(自分が)退出するまで見合わせておくように。もし、もう出発させた後ならば、そのままでもよろしい。(現代語訳)

これが、縦16cm、横15cmほどの小さな紙に書かれ、直弼の側近である宇津木六之丞(景福)に宛てられています。江戸城内で、直弼が、別の部屋に待機する宇津木にこの書付を渡すことで、指示をしたものと思われる。飛脚を出発させた後ならばそのままでもよいことですので、事態はそこまで重大でなく、例えば、その飛脚に追加して手紙を託せられたら効率的だ、という程度のことだったのかもしれない。

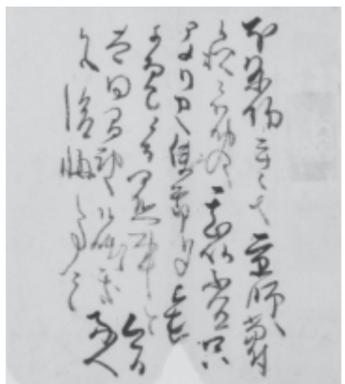
家臣に宛てたこのような小さな書付は、他には、書類の書写を指示したものの、翌日の訪問先にその通知をしておくように指示したもの、全て滞りなく済み、もうすぐ退出することと伝えるものなどがあり、軽易な事務連絡のような内容が多いようです。直弼が、このような小さな書付によって、こまめに指示連絡をはかっていた様子が窺えます。

ところで、この小さな書付には、軽易な事務連絡のような内容だからこそ、直弼の気持がしっかりと表れることがあります。

安政5年(1858)、直弼は大老に就任し、アメリカとの通商条約締結という課題に取り組みことになりました。直弼は、条約締結はやむを得な

このような状況下で、次のような書付が書かれました(写真)。

本条約(日米修好通商条約)についてあれこれ書いているのは、朝廷に当てつけがましく聞こえて甚だしいが朝廷の許可を得てから締結するという方針でしたが、幕府の交渉担当者直弼の意に沿わず、早々に調印を断りしめています。それでも直弼は早急に善後策に取り組み、3日後には早くも、条約調印と朝廷の許可無く調印したことを弁明する文書を朝廷に発信しています。また、調印により、条約批准のためのアメリカへの使節派遣も進められることになりました。



▲井伊直弼書付

よろしくない。ただ単に、アメリカへ使節として遣わされる、とだけ書いておくべきであった。今日、太田資始(幕府老中・間部詮勝(同)へ話したところ、この二人も後悔していた。(現代語訳)

宛先は書かれていませんが、家臣に宛てて状況を伝えたものかと思われる。朝廷の許可無く条約調印したことと弁明が、朝廷に当てつけがましく聞こえたと、後悔の念を洩らしています。

条約調印後の政治の難局にあっても最善の努力を尽くし、表立っては弱音を吐かない直弼ですが、表向きには見せない嘆息が、この小さな一枚の書付から聞こえてくるのです。

(彦根城博物館学芸員 早川駿治)

写真の古文書は、常設展示「ほんものとの出会い」で、5月6日(月・振)まで展示します(期間中無休)。